



No.17 2020 Autumn

「ひと、まち NAKAHARA」はジェクト(株)発行の地域情報誌です。

Take Free

ひとまち
NAKAHARA

学童クラブ

AYUMI 武蔵中原



まなぶ×あそぶ
放課後探検

2020.4.1
START

AYUMI

入会児童募集中



おかげさまで100周年
地域の皆様とこれからも



ひと、まち NAKAHARA (無料)
2020年9月発行

※NAKAHARA(なかはら)は、
中原区とその周辺地域を含みます。

発行:ジェクト株式会社
<https://www.jecto.co.jp>
〒211-0053
川崎市中原区上小田中6丁目20番2号
編集:「ひと、まち NAKAHARA」編集室
お問い合わせ TEL:044-755-2525(代表)



江戸時代の民家生活をしのぶ 川崎市立 日本民家園

江戸
明治
大正
昭和
時代



敷地は5エリアに分けられており、「信越の村」には、合掌造りの古民家が建ち並ぶ。



訪問日により異なるが、何軒かの民家へ上がることも可能。昔の庶民生活がしのばれる。

主に江戸時代に建てられた東日本の代表的な古民家を移築した野外博物館です。建物だけではなく、民家内には農具や生活用具が、園路には道祖神や庚申塔などの石造物が展示してあるので、園内に足を踏み入れた途端に、江戸時代にタイムスリップしたような気分。提灯を片手に園内をまわる「夜の民家園」(春と秋に開催。現在は中止中)も人気。



中原区小杉陣屋町の大地主、原家の住宅で明治後期に建てられた豪壮な近代和風建築。

※ジェクトでは、原家を含む民家園内の約3分の1の建物を改修・復原しました。

- 〒 多摩区枳形7-1-1
- ☎ 044-922-2181
- (伝統工芸館044-900-1101)
- 🕒 9:30~17:00 (11~2月は~16:30)
- 📅 月(祝日は開園)
- 🎫 祝日の翌日・年末年始 他
- 👤 一般500円、
- 👤 高・大・65歳以上300円



さらに選って

ナント!鎌倉・戦国時代の史跡も!! 枳形城跡

枳形城は、源頼朝の重臣で、北条政子の妹を妻とした稲毛三郎重成が築いた居城です。文献によると、鎌倉時代から戦国時代にかけて、枳形山は天然の要塞をなす山城として、たびたび武将たちに利用されてきたと考えられています。現在の枳形城跡は広場として整備されていて、展望台からは都内の高層ビル群や多摩川、富士山などを臨む360度のパノラマが楽しめます。



🕒 9:30~16:30 (展望台開放時間)

800年前の枳形城からの眺望を想像してみよう。

特集

生田緑地でタイムトリップ



川崎市最大の緑地公園、生田緑地。自然と文化が融合した市民自慢の憩いのエリアです。今回はこの深いみどりに溶け込んだ「歴史」に触れる散策に出かけます。江戸、明治、大正、昭和……と時代の変遷を辿りながら、のんびり歩いてみましょう。

四季折々の美しい姿で人気の「メタセコイアの林」ですが、実はいつ生田緑地内に植えられたものなのか分かっていないのだそうです。高さ30メートルを超えるその凛とした立ち姿には、悠久の歴史ロマンを感じさせられます。

※新型コロナウイルス感染症対策のため、閉館していたり、休日や営業時間などを変更したりしている施設があります。お問い合わせの上お出かけください。



[点在する花名所]



緑地マップを見ると花の名前のついたスポットがいっぱい! 春と秋の年2回開催する「生田緑地ばら苑」をはじめ、「菖蒲園」(ハナショウブ約2,800株)、「梅園」(51種、80本以上)、「つつじ山」、「あじさい山」など、季節ごとにいろいろな花が楽しめます。

小田急線向ヶ丘遊園駅南口から徒歩13分。商店街と住宅地を抜けると、生田緑地の玄関口、東口ビジターセンターに到着します。

生田緑地 東口ビジターセンター

生田緑地の総合案内所。緑地内の施設や四季折々の自然の見どころなどを紹介してくれます。

- 〒 多摩区枳形7-1-4
- ☎ 044-933-2300
- 🕒 8:30~17:00
- 📅 年末年始



昭和
平成

時代



世界に羽ばたいた作品の原点を知る 川崎市 藤子・F・不二雄ミュージアム

今や世界中でアニメ放送されている『ドラえもん』をはじめ、数多くの作品を生み出した漫画家、藤子・F・不二雄は、トキワ荘(東京都豊島区)の後、川崎市多摩区に住みました。このミュージアムでは、作品の原画を中心に、藤子・Fの愛用品や蔵書など数々の貴重な展示物が鑑賞できます。藤子・F流のSF(スコシ・フシギ)の世界を取り入れながらも描き続けたのが子供の生活。作品から時代の変化を感じる一方で、いつの時代も変わらないものも見つけることができます。

©Fujiko-Pro

〒 多摩区長尾2-8-1

☎ 0570-055-245

🕒 10:00~16:00

(入館日時指定予約制)

🔥 火・年末年始

👤 大人1000円、

中・高700円、子ども500円

屋上スペース「はらっぱ」にはおなじみの土管など、フォトスポットがいっぱい!

ここでしか見られない! 平成の美しい星空

かわさき 宙(そら)と緑の科学館



〒 多摩区枳形7-1-2

☎ 044-922-4731

🕒 9:30~17:00

🗓 月(祝日は開園)

祝日の翌日・年末年始

👤 無料/プラネタリウム観覧料は一般400円、高・大・65歳以上200円



好評の双眼鏡の貸出しは現在休止中。



大型望遠鏡が設置された「アストロテラス」では天体観測会が行われている。(現在は限定公開中)



川崎市の自然を「川崎の大地」「丘陵の自然」「街の自然」「多摩川の自然」「生田緑地ギャラリー」の5つのテーマで展示。(展示室入場無料)

自然と天文、科学について学べる博物館。川崎市出身のプラネタリウムクリエイター大平貴之さんが開発した世界に1台の最新鋭プラネタリウム投影機「MEGASTAR-III FUSION」が自慢です。平成24年より多くの市民に親しまれています。番組は毎月変わる当館オリジナル。専門の解説員による生解説で星空の世界にご案内します。肉眼では見えない星まで描き出すリアルな星空を楽しむことができます。

旅のまとめ

生田緑地でのタイムトリップはいかがでしたか?

テーマを設けて歩いてみることで、新たな楽しみ方ができますね。最後に旅の注意事項を一つ。生田緑地はかなり広大です。歩きやすい靴と服装でお出かけの上、ベンチなどでお休みしながらのんびり散策してください。



戦後の復興を支えた車両に触れる D51型蒸気機関車・客車 屋外展示

昭和
時代

向かい合わせ
4人掛けの座席が
懐かしい!

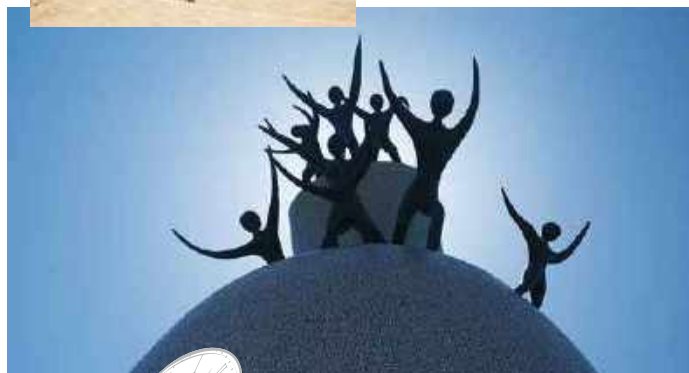


🕒 客車の車内開放9:30~16:30
🔥 年末年始



緑地内では戦後復興期から高度経済成長期にかけての輸送の主役として全国各線で活躍し、「デゴイチ(デコイチ)」の愛称で親しまれた「D51型蒸気機関車」と、昭和の長きにわたり、上野~青森間を走り続けたスハ42型の「客車」が屋外展示されています。客車は実際に乗車し、休憩所として利用することも可能。昭和の旅行気分が味わえます。

鑑賞後は併設の「カフェテリアTARO」でコーヒータイム!



昭和
時代

昭和の代表的な芸術を体感 川崎市 岡本太郎美術館

〒 多摩区枳形7-1-5

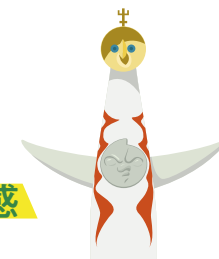
☎ 044-900-9898

🕒 9:00~17:00(入館は~16:30)

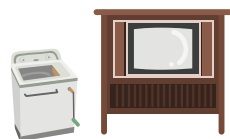
🗓 月(祝日は開園)

祝日の翌日・年末年始

👤 展覧会ごとに異なる



1970年に開催された大阪万博は日本の戦後復興を象徴する一大イベントでした。そんな大阪万博のシンボルであり、昭和のシンボルとも言える「太陽の塔」をデザインした岡本太郎は、川崎市出身。この美術館では、年間を通じて「太郎と周辺作家」「太郎と時代」「芸術と社会の関わり」をテーマにした企画展が、開催されています。太郎芸術を通して、昭和の時代を見ることで、新たな発見があるかもしれません。



ジェクトにおまかせ

中原工房SHOP

NEW

ジェクト株式会社には、中原工房があります。
このたび、インテリア小物と家具の販売を始めました。
職人がひとつひとつ丹精込めて作っています。
一生使えるモノづくりをモットーに日々精進しています。



アイアン製トイレトーパーホルダー
¥3,500(税抜き)

ネットショップでもご購入いただけます。

中原工房 webショップ 検索

小さな空間だけど、意外と大事なのがトイレ。
清潔さはもちろんですが、彩りも欲しいですね。
手に触れるものをさりげなく、オシャレなものに変えるとグッと雰囲気良くなります。
アイアンの重厚感と極力無駄を省いた
シンプルなデザインでカフェ風のトイレに早変わり。

ペーパーが残りに少なくなってもきちんと紙抑えが効くので、使いやすい設計です。
紙抑えが、落下防止のバーにもなるので、ペーパーの抜けもありません。
ユーザー様にご意見いただき、芯なしペーパーにも対応しました。

建物だけでなく、住む人の暮らしも新たに。お客様の理想を形にする。
ジェクト株式会社

お問い合わせは中原工房まで ☎044-755-4105

匠の技
の品

匠の人 ガラス作家
大西 直子さん
おおし なおこ



フュージョンガラス コルデコ

自分を表現するために、ずっと物を作っていたい。その楽しさを他の人も共有したい。

自然光をうけて一層輝く色ガラス。人が宝石に魅了されるように、大西さんも色あせることのないガラスの神秘的な美しさに惹かれ、自身が学んできたテキスタイルと融合させてきました。

大西さんが発信するブランド「^{コルデコ}Coldeco」は『color decoration』をもじったもので、幾何学模様や動植物など身近なモノをモチーフに、様々な色のガラスを組み合わせた作品を生み出しています。目指しているのは、芸術品として気取るものでなく、身近で生活に寄り添うアート。電気釜の中で溶けて丸みを帯びたお皿やブローチは、やさしい質感で日常使いにぴったりです。

「地元を散歩中、コルデコの髪ゴムを付けている子を見かけたりして、作品が地元の人に馴染むのはとても嬉しい」と語る大西さんは、地域での活動にも精力的です。地元でのワークショップでは、たくさんのガラス素材の中から好きな色を選び組み合わせます。焼成する過程で色味や形が変化して、2週間後の出来上が

りお披露目は大盛り上がりです。

大西さんはこう話します。『『自分』はとても流動的。『自分』のこだわりを貫くよりも、使う方のイメージや生活スタイルを考え、デザインや配色に取り入れるように心がけている。住んでいる地域があり、一緒に暮らしている家族がいる。そういう『自分』の出来る範囲で最大限、気取らないアートを表現し続けたい。多くの方にガラスの魅力を知っていただくことが最大の喜び。』

相手を想うことで、デザインの幅を広げているという姿勢は、これからも作品に新たな色味を加えていくのかもしれない。



ワークショップの様子

HPアドレス <https://coldeco.jimdofree.com/>

保育園とともにある集合住宅

「子どもとともに」が、

まちをもっと面白くする

PARA-Arta / しらゆり新城保育園



JECTO
施工ギャラリー

武蔵新城駅を出て、大勢の人が行き交う賑やかなアーケード「あいもーる」入ってすぐのところ、《大平屋》さんはあります。創業はもうすぐ70年、街の老舗の和菓子屋さんです。

店頭には毎日手作りのお団子、大福などのお菓子からおこまでが並び、お客さんはひっきりなしにやってきます。お団子は1本100円から、日常に寄り添うおやつです。お団子はふんわりモチモチ。こしあん、みたらしの甘さは程よく、ずんだ餡は枝豆のプチプチ感も楽しい。お茶と一緒にみんなで食べる和やかなひとときには、「今年の十五夜は晴れるかな?」なんて会話も弾みます。

もうすぐ十五夜。今年の十五夜は10月1日です。大平屋さんの十五夜団子は餡入り団子で、十五夜当日のみの販売です。購入時には店主ご夫妻が隣県から刈ってきたススキももらえるのだとか。「常連さんは、ススキは取りに行くものではなく、うちでもらうものだと思うみたい」と奥さんにはこやかに話します。予約は随時受け付けているとのこと。美味しいお団子と立派なススキで、今年の十五夜を迎えませんか。



大平屋
中原区新城1-2-20
TEL:044-766-5494
営業時間: (月~土) 9:15~19:00
(日・祝祭日) 9:30~19:00
定休日: 火曜日
URL: <https://taiheiya.com/>



当時の多摩川(玉川)の流れ



中原街道に行く

御蔵稲荷と多摩川

中原区小杉御殿町。ここには江戸時代、その名の通り小杉御殿があったのを、ご存じでしょうか。

徳川二代将軍秀忠は、当時の主要街道だった中原街道沿いに鷹狩の際の休憩、宿泊に使う小杉御殿を建てました。川崎でもっとも活気のある場所になりましたが、東海道の発展にもなつて中原街道の存在意義は低下していき、小杉御殿の建物は1655年から1660年にかけて移築されました。その御主殿跡と蔵屋敷跡に建立されたのがこの稲荷社です。

現在の等々力緑地の場所には昔、多摩川(玉川)が流れており、小杉御殿は川とその自然堤防によって守られる場所にありました。多摩川は現在とは違い蛇行してよく

氾濫する「暴れ川」でした。東京都側と川崎側に同じ地名が残っていますが、等々力もそのひとつで、度重なる洪水で川の流れが変わり、川崎側が飛び地となったためです。

さて、御蔵稲荷の石段のひとつに「野村文左衛門」の銘が刻まれています。文左衛門は江戸後期の肥料商。農民への奉仕と販路拡張のために、街道周辺に次々と石橋を架けていきました。石段はその石橋の一部が使われ、残されているものだけそうです。

記憶に新しい昨年の台風19号による河川氾濫で、「暴れ川」の二面を垣間見せた多摩川。その歴史と存在を住宅街の中でひっそりと佇む御蔵稲荷から感じることができました。

編集後記



受け継ぐ思い
伝える心

人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如くなりとは敦盛の一節ですが、いまや人生は百年時代に入りました。やりたいことが2倍できるようになったということ。もちろん老後の備えや年金問題など考えると悩ましいこともたくさんありますが、それでも人生はなお楽しいものです。

日本民家園を特集で取り上げさせていただきましたが、じつは水車小屋の施工に亡き父が携わっています。どんな思いで、作り上げたか今では知る由もありませんが、ぶらり散歩に行き、思い馳せるのも豊かなひと時です。

いつの日か、この紙面に出ているスポットに連れて行き、ともに感じ、ともに笑うのが夢です。夢を叶えるべく、今日も私は奔走します。

(編集T-I)



子供が生まれました。この文